



大腸がん

食の欧米化により、今後ますます増加する  
大腸がん

早期発見、早期治療が最も大切です

慶應義塾大学医学部外科  
専任講師 石井良幸 先生

慶應義塾大学病院 一般・消化器外科の専任講師で年間100件ほどの手術を担当されています。

水町クリニックでは、毎週水曜に下部消化管（大腸）内視鏡検査を担当、毎週月曜には上部消化管（食道・胃・十二指腸）内視鏡検査も担当していただいています。

- 大腸がんは50代から急増し、60代にかかる人が最も多くなります。血便や腹痛など自覚症状が出る前に、検査を受けるのが一番です。
- 大腸がんの家系の方はもちろん気をつけていただきたいですが、遺伝性の大腸がんは全体の5%程度です。40歳を過ぎたら年に1回は検査を受けた方がよいでしょう。
- 大腸とは盲腸から結腸、直腸、肛門までを指します。体に不要な便を溜める場所で、それが刺激になってポリープも出来やすいのです。
- 毎日の生活習慣を見直して下さい。野菜中心のバランスの良い食生活、ビタミンA、C、Eの摂取、適度な運動、睡眠、排便習慣、ストレスを溜めたいなど心がけることが必要です。ストレスが免疫を低下させて病状を悪化させてしまうのです。

Q. それでは大腸がんの検査とはどのような検査でしょうか？

A. 内視鏡検査が最も有用です。まず、検査当日朝、下剤を飲んで腸内洗浄をしてご来院いただきます。静脈麻酔をし、先端にCCDカメラがついた電子スコープを肛門から挿入し、直腸から結腸をモニターで観察します。カメラの解像度も高まり、また内視鏡の管も細く体への負担も軽くなっています。検査でポリープが見つければ、直ちに組織検査に出します。腸の正常粘膜が突然がんになるケースもありますので注意深く観察します。

水町クリニック  
ご予約・お問い合わせ  
TEL 03-3348-2181